# 働くあなたのクリニック

画像診断
**前立腺癌**

今月の先生
岐阜市民病院
玉木　正義 氏
泌尿器内視鏡部長
昭和６３年岐阜大学医学部卒
平成２２年７月岐阜市民病院泌尿器科勤務
日本泌尿器科学会専門医、指導医

前立腺がんは、50歳以上の男性に多く発症し、患者数も年々増加しているようです。

がんは、早期発見と早期治療が望ましいといわれています。今回は、前立腺がんの自覚症状の現れ方、検査と治療法についてお伺いしました。

## Q1 前立腺癌とはどんな病気ですか?

**A** 前立腺は膀胱の下にあり、尿道を取り巻くようにあり、男性にだけある臓器で、精液の一部を作る働きをしています。ここに発生する癌が前立腺癌です。前立腺癌は男性特有の病気で、現在50歳以上の日本人男性の約２３０人に１人がかかっていると言われています。前立腺癌発症には男性ホルモンの影響が考えられます。前立腺癌はもともと欧米に多く、アメリカでは男性に最も多い癌です。従来日本では少ないと言われていましたが、食事などの生活習慣の欧米化や高齢化などを背景に最近日本でも急増しています。

## Q2 前立腺肥大症だと、前立腺癌になりやすいですか?

**A** 前立腺肥大症と、前立腺癌は全く別の病気です。前立腺肥大症は、尿道周囲の前立腺が大きくなり排尿の症状が出る良性の腫瘍です。前立腺肥大症が進行して前立腺癌になるわけではありません。しかし、前立腺癌と前立腺肥大症が合併することは時々あります。

## Q3 前立腺癌の自覚症状はどんなものがありますか?

**A** 初期の段階ではほとんど症状はありません。早期癌を発見するためには、血液中のＰＳＡを測定するＰＳＡ検査が大切です。癌が進行して、尿道を圧迫すれば尿が出にくいなどの症状がでますし、骨に転移すれば、その部位の疼痛が出現します。

## Q4 PSA検査とはどんな検査ですか?

**A** ＰＳＡは前立腺特異抗原（prostate specific antigen）の頭文字をとった略号で、前立腺から分泌されるタンパク質です。採血のみでできる簡単な検査です。

ＰＳＡ値が上がっていると前立腺癌が疑われます。検診などでも測定されています。50歳以上になったら1年に一度の測定をおすすめします。

## Q5 前立腺癌が疑われたら?

**A** ＰＳＡ検査にて、前立腺癌が疑われたら、前立腺針生検が必要です。針生検は、針で前立腺の組織を直接採取してがん細胞の有無を確かめます。直腸の壁越しに針を刺してとる方法と肛門と陰のうの間の会陰部からとる方法があります。

## Q6 前立腺癌にはどのような治療法がありますか?

**A** 治療法は大きく分けて、手術療法、放射線療法、ホルモン療法、待機療法（経過観察）があります。手術療法は、根治的前立腺全摘術と呼ばれる方法です。その下を数十センチ切開して前立腺を摘出します。手術の合併症としては一時的な尿失禁、勃起障害、尿道狭窄が起こる可能性があります。放射線療法には外から放射線を照射する外照射と、放射線を発する線源を埋め込む内照射（小線源療法）があります。副作用として下痢、直腸肛門出血、頻尿などがあります。ホルモン療法は、男性ホルモンを抑える治療です。これは、前立腺癌が男性ホルモンによって増殖する性質があり男性ホルモンを抑えることによって増殖を抑制します。精巣が男性ホルモンを作っているため手術で精巣をとりのぞく方法や、男性ホルモンを抑える薬物の投与などがあります。待機療法は、比較的おとなしい癌がごく少量のみ認められ、とくに治療を行わなくても余命に影響がないと判断される場合に行われます。以上の４つの治療がありますが、癌の広がりや患者さんの年齢、体力などを考慮して、単独または組み合わせて治療します。